

令和7年9月30日(火)

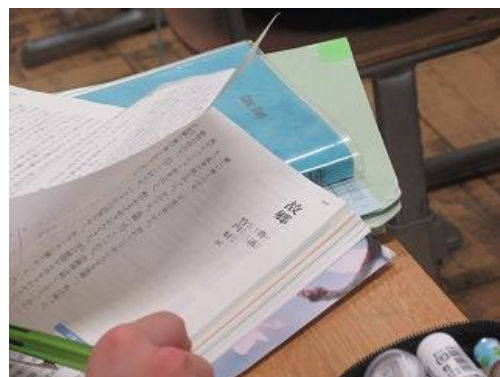


今日の水泳学習は、2年生でした。3クラス一度に行うことは施設の関係で難しいので、2クラスで実施しました。授業内容は、クロールと平泳ぎです。泳力別にグループ分けをして取り組みました。クロールはできても、平泳ぎがちょっと…という生徒が多いようです。平泳ぎは、キックして体を伸ばした時に大きく進む泳法ですが、ちょこまかと忙しく手で水をかいてしまい、そしてキックの力も弱く、結果的にスピードが上がらない状態に陥っている生徒が多数です。泳力の高い生徒がミニ先生役になって、教えている様子も見られました。3時間、たっぷり練習したので、700~800mくらいは泳いだと思います。よくがんばっていました。



3年生の国語の授業は、魯迅の短編小説「故郷」です。小学校も中学校も、学習指導要領が改訂されるたびに教科書から物語教材が減ってきているので、「故郷」は貴重な教材です。

主人公は、20年ぶりに故郷に帰ってきます。かつては大地主でしたが、今は没落していて、故郷の家財を整理するために帰ってきたのです。幼いころ、一緒に仲良く遊んだ小作人の息子ルントウとの再会を楽しみにして主人公でしたが、大人になった今、地主階級と小作人という身分の壁にショックを受けます。しかし、主人公の甥とルントウの息子が仲良く遊び始め、再開の約束をしたことを知り、若い世代にとって身分の壁にとらわれない明るい未来が来ることを願います。



この小説では、子供のころには感じなかった大人の窮屈さや苦しさ、人間関係の切なさが浮き彫りになる一方で、次世代への希望も見られます。1921年に発表された小説ですが、扱われているテーマは現代に通じるものがあります。

6校時は、2年生が修学旅行に向けて係ごとに話し合いを行っていました。修学旅行は、中学校生活において生徒たちが最も楽しみにしている旅行行事であり、そこで得られる経験は、一生の思い出になります。3日間を充実したものにするためには、事前学習のみならず、様々な係活動を意欲的かつ主体的に取り組むことが欠かせません。一人一人が役割を持ち、それをまっとうすることで、大きな成長が期待できます。誰かに連れて行ってもらう旅行ではなく、自らが進んで学ぶ修学旅行をつくり上げたいと思います。

